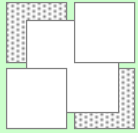


第3部 分野別の基本方針

都市構造
土地利用
交通体系
都市環境
都市防災



都市構造

まちづくりの基本的方向

- 1 まちの核となる拠点を育みます
- 2 産業と共生するまちをめざします
- 3 共生・交流を支えるネットワークの形成をめざします

<現状・課題>

中原区の都市像

- ・中原区は、川崎市のほぼ中央に位置し、井田の一部の丘陵地を除くとほとんどが平坦な地形になっています。区の北東部には多摩川、区内には二ヶ領用水や江川、渋川・矢上川が流れています。
- ・多摩川緑地や等々力緑地、二ヶ領用水、斜面緑地、さらに、花き栽培を中心とする農地など多くの環境資源があるほか、数多くの歴史資源が残されています。
- ・川崎市を縦断するJR南武線、東京・横浜を結ぶ東急東横線・目黒線、JR横須賀線、JR東海道新幹線が区内を走っています。JR横須賀線では武蔵小杉新駅の設置に向けて整備が進みつつあるとともに、川崎縦貫高速鉄道線の整備に向けた取組が検討されています。
- ・現在、7つの駅を中心とした生活圏の中に、「歩いて暮らせるまち」が形成されていますが、それぞれの地域の特性を活かした、さらなる拠点の強化が求められています。
- ・中原街道沿いに開けてきた経緯から、小杉駅を中心とした周辺地区において、にぎわいのある商業地域が形成されており、公共施設等が集まっています。本市の「広域拠点」、中原区の都市拠点としてさらなる機能の強化が求められています。
- ・駅を中心にまちが形成されてきたことやまちの大部分が平坦な地形であるということから、歩行者や自転車を利用する人が多いことが特徴になっています。自動車、歩行者、自転車が安全に安心して快適に共存できる交通環境の整備が求められています。

中原区の産業

- ・駅周辺等を中心として商業地域が形成されています。元住吉駅前のブレーメン通りなど、にぎわいのある商店街が育まれている地域もありますが、各商店街では、さらなる活性化が求められています。
- ・工業は、電気・通信・機械等を中心に発達してきたため、今でもそれらに関連する研究開発機能等を担う企業の立地が多くみられます。
- ・桃や梨の実る農村地帯としてまちが育まれてきたため、今でも、下小田中地区を中心として農業が営まれています。減少傾向にあり、農業の継続が課題となっています。

1 まちの核となる拠点を育みます

(1) 広域拠点

- ・小杉駅周辺地区は、本市の「広域拠点」として、交通広場や道路・公園等の都市基盤施設を整備し、交通結節機能を向上させるとともに、土地の高度利用を図りながら、商業・業務、研究開発、文化交流、都市型住宅などの機能が集積した広域的な拠点を形成をめざします。
- ・商業振興施策と連携して市民の生活を支える拠点として、にぎわいのあるまちをめざします。

(2) 生活拠点

- ・次の地区を、通勤・通学や買物など、市民の日常生活を支える「生活拠点」として、魅力ある拠点の形成をめざします。

武蔵新城駅周辺地区
武蔵中原駅周辺地区
新丸子駅周辺地区

向河原駅周辺地区
平間駅周辺地区
元住吉駅周辺地区

(3) 緑の拠点

- ・次の公園・緑地を「緑の拠点」として、自然環境の保全に努めるとともに、市民の憩いの場としての機能や災害時の避難場所、延焼遮断帯などの機能の向上をめざします。

等々力緑地
中原平和公園

多摩川緑地
井田山周辺の緑地群（特別緑地保全地区）

平間公園

2 産業と共生するまちをめざします

(1) 産業の集積エリア

- ・次の地区を「産業の集積エリア」として、主に工業、研究開発機能の集積を図りつつ、調和が取れた良好な市街地の形成をめざします。

宮内地区
下沼部周辺地区

上小田中4丁目地区
大倉町周辺地区

今井上町地区

(2) 農業との共生エリア

- ・下小田中地区を中心とした農地群を「農業との共生エリア」として、優良な農地の保全に努めるとともに、農地と住宅が調和した市街地の形成をめざします。

3 共生・交流を支えるネットワークの形成をめざします

(1) 交流を支える軸

- ・周辺都市との連携や区内の各拠点・地区の連携を支える「交流を支える軸」として、JR南武線、東急東横線・目黒線、JR横須賀線、川崎縦貫高速鉄道線といった鉄道と、府中街道（鹿島田菅線）、尻手黒川道路（尻手黒川線）、綱島街道（東京丸子横浜線）、宮内新横浜線等の主な幹線道路を位置づけ、文化、情報、経済の交流を活発にする交通ネットワークの形成をめざします。

(2) 歴史・文化軸

- ・ 中原街道は「歴史・文化軸」として、住民の発意による主体的なまちづくり活動を支援し、歴史と文化にふれられるまちを育みます。

(3) 水と緑のネットワーク

- ・ まちに潤いを与える自然的環境である河川や水路、さらに、緑道や街路樹等の連なりを活かし、「緑の拠点」をつなぐ水と緑のネットワークの形成をめざします。